



# ラーニング・ブリーフ - 2024年3月

## 教育クラスターによるジェンダーおよび ジェンダーに基づく暴力のリスク軽減 の統合に関するグッド・プラクティス





# 目次

はじめに	3
<b>1 HPCサイクル全体</b> におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題	6
<b>2 ニーズの査定と分析</b> におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題	11
<b>3 戦略設計</b> におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題	15
<b>4 アドボカシーと資源動員</b> におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題	21
<b>5 レスポンス・モニタリングと評価</b> におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題	24

リファレンス・グループ



# はじめに

## 本ラーニングブリーフについて

本ラーニングブリーフは、教育クラスターが人道的プログラムのサイクル（HPC）全体を通して、ジェンダーおよびジェンダーに基づく暴力のリスク軽減（GBV RM）を統合するための20のグッド・プラクティスに焦点を当てている。教育クラスターが主導するイニシアチブ、あるいはジェンダーに基づく暴力管轄部門（GBV AoR）や人道的活動におけるジェンダー作業部会（GiHA WG<sup>1</sup>）とのセクター間協力を通じて実施されるイニシアチブに参加する国の事例を紹介するものである。本ラーニングブリーフならびに、関連する3件の国別ケーススタディ（アフガニスタン、コンゴ民主共和国（DRC）、ナイジェリア）は、教育クラスターの調整チームおよびメンバーがジェンダーおよびGBV RMの統合のエビデンスを生み出し、また、その規模の拡大を支援するという、グローバル教育クラスター（GEC）のコミットメントの実践に貢献するものである。本ブリーフは、ジェンダーおよびGBVの専門家と協力しながら、リスク軽減の統合を可能にする要因をいかに活用し、ギャップを埋め、課題を克服して、グッド・プラクティスを他の文脈に適応させるかに関するヒントを提供する。

本ブリーフにおける**ジェンダー統合**<sup>2</sup>とは、緊急時下の教育（EiE）の調整において、（既存のジェンダー役割やジェンダー不平等、および、ジェンダークライシスの特定の影響に結びつけられる）女性、少女、男性、少年の特定のニーズ、能力、そして優先事項を認識し、それらに対応するようにするための活動を指す。これは、（少女および少年を含む）有意義かつ適切な参加の権利の実現に貢献し、保護を与え、支援と自立へのアクセスを高めるとともに、変革的変化を促進するものである。

1 GiHA WGは、すべての人道的状況で運用されているわけではなく、クラスターのシステムの一部でもない。これが設置された場合、IASC ジェンダーおよび人道的行動に関するリファレンス・グループ（GRG）の支援を受ける。

2 2018年 IASC 人道活動のためのジェンダーハンドブック

3 GBVという用語は、多様な性的指向や性自認（SOGI）の人々に対して行われる暴力を表現するためにも使われる。本ブリーフでは、主に少女に主眼を置きつつ、少年や、教育に携わる女性ならびに男性も含め、そのような人々に影響を及ぼす教育関連のGBVリスクに焦点を当てる。

4 2015年 IASC GBVガイドライン

本ブリーフにおける**ジェンダーに基づく暴力**<sup>3</sup>のリスク軽減とは、GBVのリスクを特定し、それらのリスクを軽減するための具体的な行動をとることを目的としたさまざまな活動を指す。GBV RMとは、すべてのクラスターに関係する人道的介入を確実にするためのプロセスである。すなわち、

- 1 GBVを引き起こしたり、その可能性を高めたりしないこと。
- 2 社会から疎外された人々がサービスにアクセスできるよう積極的に促進し、監視すること。
- 3 GBVのリスクを積極的に特定し、それを軽減するための行動を取る。
- 4 GBVに関連する利用可能なサービスに結びつけること<sup>4</sup>。

## 本ラーニングブリーフの意義

ジェンダー平等を達成し、女性および少女のエンパワメントを促進し、人道的対応におけるGBVのリスクを軽減することは、集団的責任である。GBVのリスク軽減を教育クラスターに効果的に組み込むためには、教育クラスターがそのようなプロセスを備え、これを推進しなければならない。本ラーニングブリーフの目的は、教育クラスターとGBV AoRならびにGiHA WGとの間において、様々な文脈での知識と経験の交換を促進し、教育クラスターの調整チームが、ジェンダーおよびGBV RM対応をEiEの調整ならびに応答に組み込めるよう、能力を強化することである。

## 本ラーニングブリーフの対象者

本ラーニングブリーフの対象者は、EiEの調整においてジェンダーおよびGBV RMの統合を担う主要な機構である教育クラスターと、この点で教育クラスターを支援する重要な役割を担うGBV AoRならびにGiHAである。2019年の緊急時下におけるGBVの介入調整に関するハンドブック（Handbook for Coordinating GBV Intervention in Emergencies）では、利用可能なGBV対応サービスや照会経路に関する情報の提供、GBVのリスク分析、パートナーがそれぞれのセクターにおいてGBVリスクを軽減すべく実践的で具体的なアイデアを見つけられるようにした、パートナーへのアドボカシー、情報共有、ならびに技術支援におけるGBV AoRの支援的役割が強調されている。



## 本ラーニング・ブリーフの構成

本ラーニング・ブリーフは5つの章で構成され、ジェンダーおよびGBVのリスク軽減の統合を図るためのグッド・プラクティスとヒントを紹介している。すなわち、

- 1 HPCのフェーズ全体におけるグッド・プラクティス
- 2 ニーズの査定と分析におけるグッド・プラクティス
- 3 戦略設計におけるグッド・プラクティス
- 4 資源動員におけるグッド・プラクティス
- 5 レスポンス・モニタリングにおけるグッド・プラクティス<sup>5</sup>

教育クラスターが主導したグッド・プラクティスは**紺色のボックス**で、教育クラスターとGBV AoRのセクター間協力で行われた例は**ワインレッドのボックス**でそれぞれ示される。また、ECWのグッド・プラクティスは**オレンジ色のボックス**で示される。

## 本ラーニング・ブリーフの作成について

本ブリーフは、GECのジェンダーおよびGBVスペシャリストであるMarina Berbiecが、ユニセフのグローバル・クラスター調整課 (GCCS) のGBVスペシャリストであるPamela Marie Godoy、ならびに、以下のエビデンス収集プロセスを主導し、児童保護ならびにGBVのフリーランス・コンサルタントであるEstelle-Emile Dadeと協力して執筆した。

- 人道的ニーズの概要 (HNO)、人道的対応計画 (HRP)、教育クラスターの戦略、エデュケーション・キャノット・ウェイト<sup>7</sup> (ECW) の資金提供による複数年レジリエンスプログラム (MYRP) など、人道的状況<sup>6</sup>に関する32の戦略文書のデスクレビュー。
- 23の教育クラスターを対象とした調査
- 13の人道的状況における教育クラスターならびにGBV AoRコーディネータへのキー・インフォーマント・インタビュー (KII)、および、2つの人道的状況におけるGiHA WGコーディネータならびにジェンダー・アドバイザーへのKII (計28件)<sup>8</sup>。

**テクニカル・レファレンス・グループ**が設けられ、全体を通して協議が行われた。これは、GEC、ECW、緊急時下の教育に関する機関間ネットワーク (INEE)、グローバルGBV AoR、ユニセフ・グローバル・クラスター調整課 (GCCS)、南スーダン教育クラスター共同コーディネーター (UNKEA) の代表者で構成された。

## 謝辞

本ブリーフの作成にあたり貴重な知見を提供し、貢献してくださった次の方々に感謝申し上げます: Michelle Brown、Friedrich Affolter、Thorodd Ommundsen (以上GEC)、Jihane Latrous (ECW)、Lauren Gerken (INEE)、Shiva Sharifzad (GBV AoR)、Manuela Tiyu (南スーダン教育クラスター)。GECは、本ラーニング・ブリーフの作成にあたり、時間を割き知見を提供してくださった教育クラスターならびにGBV AoRの調整チームならびにジェンダー専門家の皆様に心から感謝申し上げます。

本ラーニング・ブリーフならびに3件の国別ケース・スタディは、ECW-GECパートナーシップ (ECWアクセラレーション・ファシリティ (AF) 基金枠) およびGEC-NORCAPパートナーシップを通じて作成に至ったものである。



## 緊急時下の教育の調整と対応におけるジェンダーおよびGBVのリスク軽減を統合するために利用できる他のガイダンス、ツール、リソースについて

ジェンダーおよびGBVのスペシャリストが、世界レベルと国レベルの両方において皆様をサポートしている。世界レベルでは、GECのジェンダーおよびGBVスペシャリストがあらゆる質問に答え、教育クラスターの活動を支援している。また、GECヘルプデスクに問い合わせることもできる。その他の専門家として、GBV AoR、GiHA WG、GENCAPアドバイザー、クラスター主導機関 (CLA) のジェンダー/GBVスペシャリスト、あるいは、教育クラスターやクラスター間調整グループ (ICCG) といった組織のメンバーが挙げられる。

- 5 本ブリーフの執筆時点において、GECは、HPCのピアレビューと評価の段階における、ジェンダーおよびGBV RMの統合に関連する具体的なグッド・プラクティスを特定していない。GECは、同クラスターがEIEプログラムやAAPメカニズムにおけるジェンダーおよびGBV RMの統合について、パートナーとの集団的な学習プロセスを促進し、クラスター調整実績モニタリング (CCPM) の実施中に自らの実績を振り返る機会があり得ることを認識しており、そのような場合に、将来これらの取り組みを文書化し、支援するよう努める。
- 6 アフガニスタン、バングラデシュ、ブルキナファソ、ブルンジ、カメルーン、中央アフリカ共和国 (CAR)、チャド、コロンビア、コンゴ民主共和国 (DRC)、エクアドル、エチオピア、ハイチ、ホンジュラス、イラク、レバノン、リビア、マリ、ニジェール、ナイジェリア、モザンビーク、ミャンマー、パキスタン、パレスチナ、ペルー、ソマリア、南スーダン、スーダン、シリア、ウガンダ、ウクライナ、ベネズエラ、イエメン。
- 7 ECWは、緊急時および長期化する危機下における教育 (EiEPC) のための国連グローバル基金である。
- 8 アフガニスタン、ブルキナファソ、中央アフリカ共和国 (CAR)、チャド、コロンビア、コンゴ民主共和国 (DRC)、エチオピア、ナイジェリア、ミャンマー、南スーダン、全シリアおよび北西シリア、ウクライナ

## GEC連絡先

GECジェンダー／GBVスペシャリスト:

**Marina Berbiec**

Email & Teams: [mberbiec@unicef.org](mailto:mberbiec@unicef.org)

Skype: marina.berbiec

ヘルプデスク:

[help.edcluster@humanitarianresponse.info](mailto:help.edcluster@humanitarianresponse.info)

Skype: help.edcluster

ユニセフ・グローバル・クラスター調整課 (GCCS) GBV  
スペシャリスト:

**Pamela Marie Godoy**

Email & Teams: [pgodoy@unicef.org](mailto:pgodoy@unicef.org)

## グローバルGBV AoR連絡先

ヘルプデスク: [enquiries@gbviehelpdesk.org.uk](mailto:enquiries@gbviehelpdesk.org.uk)

## ガイダンスおよびツール

[2023年 GEC HNO／HRPにおけるジェンダー／GBVの  
ヒント集](#)

[2023年 GEC ニーズ査定トレーニングにおけるジェンダー  
およびGBV RMの統合](#)

[2023年 GEC 教育ニーズの査定とレスポンス・モニタリング  
におけるジェンダー／GBV指標](#)

[2022年 GEC AAAQ教育フレームワーク \[改訂中\]](#)

[2021年 GEC&ユニセフ 教育クラスター向け GBV RM  
HPCツールキット](#)

[2015年 IASC GBVガイドライン 教育に係るテーマ別行  
動指針 \(TAG\)](#)

[2018年 IASC ジェンダーハンドブック](#)

[2021年 INEE ECW UNGEI EiE GenKit](#)

## 略語一覧

**AAAQ**  
可用性・アクセス性・容認性・質

**AAP**  
影響を受けた人々への説明責任

**AoR**  
管轄部門

**CAR**  
中央アフリカ共和国

**CLA**  
クラスター主導機関

**CP**  
児童保護

**CP AoR**  
児童保護管轄部門

**DRC**  
コンゴ民主共和国

**ECHO**  
欧州委員会人道援助・市民保護総  
局

**ECW**  
エデュケーション・キャノット・ウェイト

**EiE**  
緊急時下の教育

**EiEPC**  
緊急時および長期化する危機下にお  
ける教育

**FER**  
一次緊急対応

**FGD**  
フォーカス・グループ・ディスカッション

**GAM**  
ジェンダー・年齢・年齢・年齢

**GBV**  
ジェンダーに基づく暴力

**GBV AoR**  
ジェンダーに基づく暴力管轄部門

**GBVIMS**  
ジェンダーに基づく暴力情報管理シス  
テム

**GBV RM**  
ジェンダーに基づく暴力のリスク軽減  
(策)

**GCCS**  
グローバル・クラスター調整課 (ユニセ  
フ)

**GEC**  
グローバル教育クラスター

**GENCAP**  
ジェンダー・スタンバイ・キャパシティ

**GIHA WG**  
人道的活動におけるジェンダー作業部  
会

**GLO**  
ジェンダー主導組織

**HCT**  
人道カントリー・チーム

**HNO**  
人道的ニーズの概要

**HPC**  
人道的プログラムのサイクル

**HRP**  
人道的対応計画

**IASC**  
機関間常設委員会

**ICCG**  
クラスター間調整グループ

**INEE**  
緊急時下の教育に関する機関間ネッ  
トワーク

**JENA**  
共同教育ニーズ査定

**KII**  
キー・インフォーマント・インタビュー

**MHM**  
月経衛生管理

**MHPSS**  
メンタルヘルスおよび心理社会的支援

**MSNA**  
多部門ニーズ査定

**MYRP**  
複数年レジリエンスプログラム

**NGO**  
非政府組織

**NWS**  
北西シリア

**OCHA**  
人道問題調整事務所

**PiN**  
困窮状態にある人々

**PSS**  
心理社会的支援

**PSEA**  
性的搾取と虐待からの保護

**SAG**  
戦略的諮問グループ

**SEA**  
性的搾取と虐待

**ToR**  
付託事項

**UN Women**

ジェンダー平等と女性のエンパワーメント  
のための国連機関

**WASH**  
水・トイレ・衛生習慣

**WLO/WRO**  
女性主導組織／女性の権利団体

**WoS**  
全シリア

# 1 HPCサイクル全体におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題

本セクションでは、HPCサイクルのすべての段階に適用されるグッド・プラクティスを紹介する。

**女性主導組織 (WLO) との協議と関わり:** WLOは、教育クラスターの分析、計画、意思決定プロセスのすべてに関与すべきである。しかしながら、GECが2023年2月に実施したジェンダー／GBV調査では、インタビュー対象のクラスターのほぼ半数がWLOをメンバーに入れていなかったことが明らかになった。3分の2 (66%) は、女性や少女が教育面で直面する障壁やリスクを特定し、それに対応するために、国や地域のWLOと連携したことはないと答え、また、83%は、彼女らが教育クラスターと関与する上で直面する具体的な課題や障壁を理解すべく、WLOと協議したことはないと答えた。WLOや、人道的／緊急時下の教育 (EiE) を負託された組織の女性代表者が教育クラスターのメンバーである場合、その関与の範囲は、クラスターを共同主導する (南スーダン) ことから、クラスターメンバーの80%を占め、技術作業部会やサブナショナル作業部会を主導する (ウクライナ)、クラスターのSAGのメンバーである (CAR)、またはエデュケーション・キャノット・ウェイト (ECW) の複数年レジリエンス・プログラム (MYRP) 開発プロセスにおいて、積極的な役割を果たすメンバーで、ジェンダー主導組織 (GLO) として活動する (チャド、エチオピア) など、多岐にわたっている。

コロンビアの教育クラスターは、WLOを含む現地のパートナーと定期的に協議しながら、迅速な査定を行っている。その結果、多くの地域で、通学路での犯罪組織による身体的・性的暴力や、学校中退につながる早期妊娠など、青年期の女子が直面する教育関連のリスクや障壁に対する理解が深まっている。

CARでは、WLOが教育クラスターの戦略諮問グループ (SAG) のメンバーに入っている。

AFEB (Association des femmes évangéliques de Bossangoa) は、プロジェクト提案書に女性や少女のニーズが明確に記載されていることを確実にするため、定期的にプロジェクトのレビューと評価を行っている。

WLOが関与することの主な利点として以下が挙げられる：

- アフガニスタン、ブルキナファソ、ニジェール、ナイジェリア、スーダンなどの国々では、**草の根レベルでのEiEプログラムの実施**において、多くの教育クラスターのメンバーが、WLO/WROとのパートナーシップを優先していることが研究から明らかになった。
- 教育クラスターでWLOが積極的に活動している状況では、WLOがニーズの査定・分析、戦略設計活動に参加することで、同クラスターが、**(特に青年期の) 女子が教育サービスにアクセスする際に直面する障壁やリスクをよりよく理解し、緊急時下でより安全でより包摂的な教育を設計**することができるようになっていた。
- WLOが教育クラスター活動に参加することは、**ジェンダー対応的なクラスターの現地化というアジェンダの強化にも貢献している**<sup>9</sup>。

アフガニスタンの教育クラスターは、WLOや女性活動家とともに固有のプラットフォームを作っており、プラットフォームのメンバーが、少女や青年期の女子に緊急時下の教育サービスを提供するための現在進行中の取り組みや有望な実践例に関する情報を共有したり、12年生以降の女子教育禁止による影響を緩和するためのアプローチや戦略について議論し、合意する場を設けている。2023年のHRPにあるように、「教育クラスターは、クラスターやSAGの会議への出席を通じて意思決定に参加するパートナー、とりわけ現地のパートナー (女性主導のNGOパートナーや活動家を含む) を頼りにしている」。

<sup>9</sup> クラスターの調整にWLOが参加することは、GBVのリスク軽減と現地化、およびAAPの基本原則である。ジェンダーに対応した現地化に関する2020年のランドバーゲンのガイダンスノートには、WLOの教育活動への参加を支援し、それを高めるためのより詳細なガイダンスが示されている。



エチオピアの教育クラスターは、2023年から2024年にかけて、INGOのVOICEとWLOが、ECWのアクセラレーション・ファシリティ資金枠を通じて共同で実施する調査に参加している。この調査の目的は、緊急時および長期化する危機下における教育（EiEPC）の調整、協議、ならびに計画策定において、現地の女性・女子組織の有意義かつ公平な参加を強化するためのイネーブラー（目的達成を可能にする要因）とボトルネック（目的達成の停滞となる要因）、戦略、およびグッド・プラクティスを明らかにすることである。

WLOの参加を確保するためには、資金調達の仕組みや、WLOとの協力に対するドナーのコミットメントも重要である。

例えば、ECWは、ECWが行うすべての投資の設計と実施において、女性、少女、そして彼女らを代表する組織の声を聞き、それを反映すること、そして「MYRPの設計と実施にWLOが組織的に関与し」<sup>10</sup>、当該国の教育クラスターがその開発を促進することを約束している。HPCのすべての段階において、教育クラスターがWLOを関与させ、WLOと密接に協力する取り組みを追求し、強化する必要がある。

**教育クラスターによるジェンダー、GBV、PSEA、または分野横断的なテーマごとのフォーカルポイントの指定：**フォーカルポイント（活動の中心）は、HPCサイクル全体を通じて、ジェンダーおよびGBV RMが常にクラスターの活動に組み込まれるようにすることを主たる責任としたうえで、GIHA WGまたはGBV AoRによって鍛えられる。そのような責任には、次のことが含まれる可能性がある（[IASC 付託事項（ToR） 草稿を確認するにはこちら](#)）。すなわち、教育クラスターの会議において、ジェンダー／GBVおよびその他の分野横断的な事柄が議題となるようにすること；ジェンダーおよびGBV RMの統合に関する助言と技術支援をクラスターのメンバーに提供すること；GBV AoRまたはGIHAの会議に出席し、これらの活動と教育クラスターの活動との連携を図ることである。これは、最近改訂された[2024年 IASC 人道的活動におけるジェンダー平等と女性および少女のエンパワメントのためのポリシー](#)に整合する。

しかしながら、教育クラスターのジェンダー・フォーカルポイントには、その役割と責任に関する明確なガイダンスがない。フォーカルポイントが指定されたクラスターのうち、ToRを備えているのは2つのクラスターに限定されている。

仮に、そういったToRがGIHA／PSEAレベルで存在するとしても、必ずしもフォーカルポイントと共有されているとは限らない。それゆえ、クラスターの期待という点で、フォーカルポイントと調整チームとの間に解釈の違いが生じることがある。さらに、教育クラスター内でジェンダー・フォーカルポイントを推進する役割は、特にボランティアベースで行われ、専用の資金もないため、長期にわたって背負いたくない負担が増えるという感覚に囚われることがよくある。結果として、多くの場合、ToRにある通例の責任を優先させるという名のもとで、ジェンダー／GBVフォーカルポイントの責任が通例の責任と兼務になったり、あるいはその優先順位を下げたりすることになっている。ジェンダー・フォーカルポイントが教育クラスターの調整業務と兼務になっている環境では、両方の仕事を組み合わせることは必ずしも容易ではなく、その結果、ジェンダー／GBVの仕事よりも調整業務が優先されている。

**ECWが支援するジェンダー主導組織（GLO）との協力**— ECWが資金提供するMYRPの開発プロセスにおいて：2021年以降、MYRPの各投資に対してGLOを任命することがECWによって義務付けられており、WLOがこのような役割を担うことがますます奨励されている。ジェンダー主導組織は、教育クラスターとMYRP開発委員会を支援することで、ECWが資金提供するMYRP全体を通じてジェンダーおよびGBVへの配慮（少女やリスクにさらされたその他のグループを対象とした、特定のアウトカム、アウトプット、予算配分された活動を含む）が組み込まれるようにする、国内のジェンダー／GBV専門組織である。これにより、[ECW ジェンダー実施計画](#)に沿ったジェンダー応答的MYRPの設計が保証される。そうすることで、ジェンダー／GBVの専門家組織と、教育クラスターの他のメンバーとの間で、知識および経験を交換する機会が促進される。

パキスタンでは、教育におけるジェンダー平等の専門知識を持つ2つの組織（PAGE：Pakistan Alliance for Girls EducationおよびVSO：Voluntary Service Overseas）が、ECWのMYRP開発プロセスを支援した。

10 2021年 ECW ECWの支援投資における現地の女性・女子組織（LWGO）の有意義な関与に関するガイダンスノート

**教育クラスターとCPならびにGBV AoRのセクター間**

**協力:** 教育クラスターと保護アクター（特に児童保護のアクター）ならびにGBV AoRのセクター間で調整と協力をを行うことで、危機の影響を受けた子どもたちが直面するニーズ、障壁、およびリスクに応答するさまざまな人道的対応の一貫性と補完性が実現される。

教育クラスターがCPならびにGBVのアクターと緊密に協力する必要性は、次のような認識から来ている。すなわち、教育とは保護的であることが可能であり、また、そうあるべきであるものの、必ずしもそれが実現されていないこと、そして、学校と学習空間は、教育へのアクセスだけでなく、危険にさらされている子どもたちや暴力を受けた経験のある子どもたちのための安全、保護、およびエンパワーメントの機会、心理社会的支援、ならびに、CPおよびGBVの専門的なサービスへのアクセスをも提供するものである、という認識である<sup>11</sup>。

2023年末、マリの教育クラスター、児童保護AoR、およびGBV AoRは、多様で最もリスクにさらされた少女および少年の教育と保護のニーズについて、より調整された包括的な対応を確実にするための集団的な優先行動を定義すべく、合同ワークショップを開催した。これら3つの調整機構は、以下の5つの優先的行動で協力することを約束した：

- 1 ニーズ、障壁、リスクの共同分析
- 2 戦略文書の作成における協力
- 3 合同のドナー・ラウンド・テーブル
- 4 GBVを含め、暴力の危険にさらされている、または暴力を受けたことのある少女や少年からの情報開示を特定し、これを受理するうえでの、学校および学習空間のスタッフの照会経路とトレーニング
- 5 セクター間協力を導く作業部会。

これら3つの調整チームは、ワークショップの直後から2024年のHNRPに共同で取り組み、また、教育クラスターは、CPとGBVのAoRを年末の定例研修会に招いて、教育クラスターの戦略についてのインプットを提供し続けている。

全シリアのGBV AoRは、GBVリスク軽減の主流化における教育セクターの優先事項およびコミットメントに関する4ページの文書を作成した。この文書は、WoS、北西部／境界域、北東部、およびダマスカスを拠点とする教育クラスターのためのGBV RMガイドツールとして機能することを意図している。これは、2023年にMSNAによって特定されたGBVリスクに焦点を当て、それらが教育セクターとどのように関連しているかを分析している。また、シリアの教育セクターにGBVのリスク軽減を組み込むうえでの重大な障壁についても概説している。同GBV AoRは、こうした課題を克服するためのいくつかの提言を行い、AoRが教育クラスターを支援できる分野を提案した。

2023年には、教育関連のHRPの半数以上（52%）が、特にGBVの予防、リスク軽減、および対応に関して、GBVまたはCP AoRとのセクター間協力を明確に取り上げている。スケジュールの衝突や資金提供の優先順位に関連する課題が提起されたが、教育、CP、およびGBVアクター間のセクター間協力が重要となる。CPやGBV AoRが主導するGBV RM関連の活動は、チーム間で合意した活動を実施し、モニタリングすることに対する教育クラスターの主体性と説明責任を確実にするため、最初の段階から教育クラスターと協力して行うことが不可欠である。

**ジェンダーおよびGBV RMの統合に関する、教育クラスターの調整チームおよびメンバーの能力強化と交流：**

教育クラスターの調整チームおよびメンバーは、ジェンダーおよびGBV RMの統合に関する知識とスキルの継続的な開発に関して、定期的に訓練と指導、そしてサポートを受けることが不可欠である。そうすることで、EiEの調整と対応において、あらゆる多様性を持つ少女ならびに少年に、安全で包括的かつ中断のない教育へのアクセスを保証するために、ジェンダーおよびGBVへの配慮を組み込むことの重要性について理解を深めることができる。これはまた、教育クラスターが自身の活動にジェンダーおよびGBVを統合するにあたって、調整と計画編成の両面で取るべき行動について、非常に明確で実践的な例を示している。

11 保護の中心性、教育の最低基準、児童保護の最低基準、GBVの最低基準、GBVガイドラインに沿ったもの。



2022年、DRCの教育クラスターは、ジェンダー／GBVなどの分野横断的テーマを含め、EiEに関連するトレーナーの人材バンクを州レベルで設けた（ToRは[こちらからアクセスできる](#)）。能力開発ニーズの事前査定により、クラスター・メンバーの80%が能力開発を必要としていることが明らかになった。同クラスターは、児童保護、子どものセーフガーディング、ジェンダーおよびGBVの予防とリスク軽減など、トレーニングのファシリテーションや特定の専門分野で能力を持つパートナーを特定した。同クラスターは、外部からの支援に頼るのではなく、内部の人的資源を活用することで、メンバーがいつでも安全で質の高いEiEプログラムを提供できるよう、メンバーの知識の深耕と能力強化を図っている。このイニシアチブはまた、教育クラスターの活動における分野横断的な課題の統合を改善し、クラスターの調整プロセスにおける現地パートナーの関与と主体性の強化を支援することも目的としている。これは、GECのジェンダーおよびGBVのスペシャリストやGBV AoRの支援を受けたうえで、他の文脈でも再現し、その影響をモニタリングすることができるだろう。

2022年末から2023年半ばにかけて、GECのジェンダーおよびGBVのスペシャリストは、8か国の教育クラスターの調整チームやメンバー150組以上に対し、教育の調整と対応におけるジェンダーおよびGBV RMの統合について（オンラインと対面で）トレーニングを行った。トレーニング教材は英語とフランス語で用意されており、実装前に必ず当地の状況に合わせて調整されている。GECはまた、教育クラスターに対して毎年提供しているグローバルCORE 2トレーニングを全面的に見直し、分野横断的な課題、特にジェンダーおよびGBVをより深く組み込むようにしたところ、参加者から好意的なフィードバックを得た。GECは現在、緊急時下の教育の調整と対応における、ジェンダーおよびGBV RMに関するeラーニングを開発中である。

## 主たるイネーブラー（目的達成を可能にする要因）

**OCHAのジェンダー統合ならびにその他の分野横断的な課題に対する戦略的コミットメント**は、教育クラスターの活動においてジェンダー統合を可能にする重要な要因であるとして、ほとんどの教育クラスターから評価されている。このようなコミットメントは、GiHAやその他の分野横断的なテーマ別グループによる、教育クラスターのHNO／HRPのナラティブの体系的レビュー、ジェンダー・フォーカルポイントの指定、ならびに、共同資金の配分スコアカードにジェンダー平等、影響を受けた人々への説明責任（AAP）、障がいと包摂性の項目を含めるきっかけとなる。教育クラスターは、特にGBV RMに関してOCHAがさらに優先順位を高めることが有用であろうと指摘しており、これには[2017年にIASCが発行した、GBVへの対処方法に関する人道調整者（HC）および人道カントリートチーム（HCT）向けピア・ツー・ピア（P2P）ガイダンス・ノート](#)<sup>12</sup>の体系的な実施や、[国別共同基金（CBPF）スコアカード](#)の使用が含まれる。なお、このスコアカードには、プロジェクト審査プロセスの加重指標として、ジェンダー平等の促進、GBVへの対応、IASCのGBVガイドラインとの整合性、保護の中心性、AAP、およびジェンダー応答的な現地化が含まれている。

**クラスター主導機関（CLA）の組織的コミットメント：**ジェンダー／GBV RMの統合に関するユニセフとセーブ・ザ・チルドレンからの支援は、教育クラスターがジェンダーおよびGBV RMの唱道者としての役割を果たすために極めて重要であるとして、いくつかのクラスターによって強調されている。

**教育クラスターの調整チームのこれまでの経験、トレーニング、コミットメント：**教育におけるジェンダーおよびGBV RMの統合に関する経験を有していたり、そのような訓練を受けた教育コーディネーター、あるいは、GBV RMが実際にどのようなものかを知っている教育コーディネーターは、パートナーに対して、彼らが自らの対応にジェンダーおよびGBV RMを体系的に組み込み、GBV AoRとの緊密な連携を維持するよう積極的に促すことができる。このことは、GECが、ジェンダーおよびGBVに関する国の教育クラスターの能力を強化するという取り組みの重要性を強調している。

12 このガイダンス・ノートは現在改訂中で、2024年に改訂を終える予定である。

## ヒント

1

**国の教育クラスター**は、戦略文書内で以下のことにコミットすることにより、WLOと積極的に関わり、WLOの能力を強化する。

- a その文脈の中でWLOを特定すること
- b その組織的、運営的、技術的能力を強化すること
- c クラスターのメンバー、クラスターの共同議長、国レベルまたはサブナショナル・レベルの作業部会またはタスクフォース、SAGのメンバー、および、EIEサービス提供の実装パートナーとしてのWLOの、教育クラスターでの積極的かつ有意義な関与を支援すること。

GECは、2024年、ジェンダーに対応した現地化に関して、WLOのメンバーシップ／リーダーシップの水準および障壁のマッピングに取り組み、教育クラスターを支援する予定である。

2

**国の教育クラスター**は、ジェンダー／GBVのフォーカルポイント、あるいは、ジェンダー／GBV関連の特定の責任を備えた分野横断的なフォーカルポイントを指定する。教育クラスターのニーズに合わせた標準的なToRは、GIHAまたはGBV AoRが配分することができる。

GECは、要請に応じて、ToRの作成ならびに、任命された個人または組織の指導を支援することができる。

3

**国の教育クラスター**は、MYRP開発プロセスにおいてジェンダー主導組織と緊密に協力することで、ジェンダーおよびGBVへの配慮がプロセス全体を通して主流となるようにし、また、1つ以上のアウトカムをジェンダーを対象とした介入ならびにGBV RMの介入に特化させるようにする。

4

**国の教育クラスター、GBV、およびCP AoR**は、相互協力分野を共同で特定し、HPCサイクル全体の優先事項を定め、モニタリングの枠組みに合意する。

5

**国の教育クラスター**は、ジェンダーおよびGBV RMの統合に関してメンバーが継続的な能力開発と交流ができるようにする。

ガイダンス、ツール、トレーニング、コーチングの機会といったサポートは、GECのジェンダーおよびGBVスペシャリストを通じて利用できる。

6

**グローバル教育クラスター**は、ジェンダーおよびGBV RMの統合に関するグッド・プラクティスのリポジトリを構築・維持し、利用可能なツール、ガイダンス、グッド・プラクティスを国の教育クラスターと定期的に共有する。

GECは、2023年のグローバル年次パートナー会議でのパートナーのコミットメントと整合させながら、保護と包摂により広範に注目し、その他の分野横断的な課題にも敷衍させるために、このリポジトリを構築する。

7

**グローバル教育クラスターとグローバルGBV AoR**は、共同のグローバル・ガイダンス、ツール、指標、およびアドボカシー資料、ならびに、国／現場の支援を含め、教育セクターにおけるジェンダーおよびGBV RMの統合に関する相互協力体制を強化する。



## 2 ニーズの査定と分析におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題

ジェンダーおよびGBVのリスク分析を行うことは、教育ニーズの査定・分析において、危機が少女および少年の教育や教職現場に与えるジェンダーごとの異なる影響や、既存のジェンダー不平等が危機によってどのように悪化したかを理解するうえで不可欠である。少女、少年、青年期の子どもの多様なグループが直面する教育上のニーズ、障壁、リスクに関する性・年齢・障がい別データ（SADD）の収集と分析は、あらゆるジェンダー分析の中核をなすものである。

**教育サービスにアクセスする少女および少年における、ジェンダーおよびGBVに関連した障壁およびリスクの分析：**教育クラスターは、教育ニーズの分析全体において、ジェンダーおよびGBVのリスク分析を統合することに実質的な労力を注いでいる。

イエメンの教育クラスターは、2023年のHNOの中で、女性の教師はわずか32%にすぎず、少女の教育へのアクセスに影響を及ぼしていると指摘した。

2023年には、ほぼすべての教育HNO（94%）が、教育を必要とする人々に関する性ごとのデータをPINのナラティブや自身のナラティブの中で示しており、教育HNOの4分の3以上（78%）が、緊急時下での教育サービスにアクセスする際に少女が直面する障壁やリスクについて何らかの説明を盛り込んでいた。また、61%は、通学路や、学校および学習空間で少女や少年が直面する安全上の懸念や保護／GBVのリスクを分析していると報告している。しかしながら、PINを性・年齢・障がい別に細分化したものという点では、ジェンダーあるいはGBVに関連した頑健なリスク分析が必ずしも存在するわけではなかった。例えば、就学率はなお、「子ども」全体について示されることが多く、年齢や教育水準という点で、教育へのアクセスにジェンダー差があるかどうかについては、詳細が示されていない。

パレスチナの教育クラスターは、2023年のHNOにおいて、ヨルダン川西岸およびガザにおける通学路での安全確保リスクが、少女と少年の両方の中途退学を引き起こす主な理由であることを明らかにした。また、青年期の男子は危機下において家計に貢献することが期待されるため、退学率は女子よりも男子の方が高いことも示された。女子が中途退学するのは、早期結婚や家族からの圧力、あるいは安全確保への懸念が原因であることが多い。

児童保護やGBVの課題は、文脈を問わず最も一般的なものであり、学校を中途退学する主な理由となることが多い。これには、児童婚（GBV）、少女の早期・強制妊娠、少女（そして少女と比べて圧倒的な数の少年）の児童労働、通学路や学校での安全への懸念や、安全確保およびGBVのリスク、少女のサバイバル・セックスや少年の武装勢力への強制徴用など、その他の安全確保およびGBV関連の懸念が含まれる。

2022年のニジェールのJENA（英語の要約は[こちら](#)）では、協議に参加した少女の半数近くが、女子が中途退学する理由はGBVの一種である児童婚であると答えている。キー・インフォマントの42%が、少女は通学中に性暴力や暴行を受けるリスクがあると答えた。2023年のCARのJENA（英語の要約は[こちら](#)）では、過去6ヶ月の間に17%が、性暴力を含め、学校や通学路で当該コミュニティの少女が経験した暴力事件について見聞きしたとしている。2023年のカメルーンのHNOでは、貧困に直面した少女が用いる負の対処戦略が強調された。「両親の収入不足に直面した子どもたちは、学校に通えなくなった [...] 若い少女や青年期の女子は、家事使用人や「安い」家事労働者になったり、あるいは、サバイバル・セックスに頼らざるを得なくなったりしている [...] 小学生を含む少女らは、自分の教育費を稼ぐためにサバイバル・セックスに頼ると報告されている」。

GECのジェンダー／GBVスペシャリスト、GiHA WG、UN Women、GBV AoR、あるいはPSEAネットワークは、多くの場合、教育ニーズの分析にジェンダーへの配慮を組み込むことを支援している。このような支援は、HNOでの教育クラスターセクションの体系的レビュー、教育におけるジェンダー格差と関連する根本原因に関する分析の共有、GBVIMSデータ（特に、児童婚など少女に被害されたGBV事例の報告）、教育関連のGBVリスクの分析など、さまざまである。GECは、2023年に[教育クラスターのためのHNO/HRPIにおけるジェンダーおよびGBVの統合に関するヒント集](#)を作成した。ミャンマー、ナイジェリア、全シリアなどいくつかの状況では、教育査定ツールを直接レビューする支援も行われている。

教育データ収集ツールにジェンダーおよびGBVの検討事項が組み込まれているにもかかわらず、教育セクターに関連するジェンダーおよびGBVのデータや、ジェンダー／GBVの視点から捉えた、利用可能な教育データの分析における国内の能力は、なお限定的である。教育クラスターの中には、ジェンダーに基づく分業、家計の意思決定、公共のスペースやサービスへのアクセスなど、ジェンダー／GBVの専門家組織によるマルチセクター・ジェンダー分析から得られた知見を、自らの分析や対応に役立てているところも多くある。しかしながら、このようなジェンダー分析が常に利用できるとは限らず、また、その教育セクターに関連する少女と少年のニーズに特化した知見が含まれていない場合もある。例えば、現在利用できる[UN Women／CAREの迅速ジェンダー分析（RGA）ツール](#)には、必ずしも教育が含まれておらず、また、これが含まれていたとしても、その情報は危機に陥る以前の国内データに限られており、その焦点は少女ではなく女性の状況に限定されていることが多い。教育クラスターのメンバーは、迅速査定、多部門ニーズ査定（MSNA）、あるいは合同教育

ニーズ査定（JENA）といったツールは一般的すぎると感じると報告している。収集されたデータは、収集過程であろうと分析過程であろうと、性や年齢、および障がいごとに集計されているとは限らず、また、このようなツールには、セクターに関わるGBVのリスクや障壁を詳細に分析できるような質問が必ずしも含まれているわけではない。教育クラスターのメンバーは、これらのツールが少女と少年を特に区別することなく、広い意味で子どもたちのデータが収集されていると感じている。教育パートナーが学校や学習空間におけるニーズの査定やレスポンス・モニタリングにおいて、安全性の監査を普通に利用する状況にはまだ程遠い。そのような場合であっても、安全性の監査がクラスターによって、あるいは文脈全体を通して、標準化されているわけではない。ジェンダー／GBVのデータは、JENAで利用できるようになってきている。それでもなお、教育クラスターの調整チームは、教育セクターに直接関連するジェンダーおよびGBVの頑健な障壁・リスク分析を行うために、どのようなデータを使用できるかを特定するためのさらなる支援を必要としている。

### 教育セクターにおけるAAAQフレームワークの調整と活用

2023年、GECは、世界的なニーズの査定と準備（NAP）のトレーニングにおいて、ジェンダーおよびGBVの主流化に関する詳細な演習を完了し、また、教育ニーズの査定におけるジェンダーおよびGBVの専用セッションを初めて開発および提供した。GECは、ECWの支援を受けながら、AAAQフレームワークを教育セクター向けに調整する作業を行っており、これには簡単な方法論ガイダンスの開発、査定フレームワークのガイドとなる一連の設問、今後GEC JENAバンクに掲載される可能性のある一連の設問指標などが含まれる。

2023年、GECは8か国でAAAQフレームワークのトレーニングを行い、また、4か国において、AAAQフレームワークならびにジェンダー／GBVの検討事項を当地の査定フレームワーク、データ収集ツール、および方法論に統合する支援を行った。



教育セクターに合わせたガイダンス、ツール、およびトレーニング資料を開発することは、ジェンダー不平等、GBV、（特に少女の場合の）教育へのアクセスの欠如や中断との関連についての強力なエビデンスを得るのに役立っている。

2023年のJENA期間中、CARの教育クラスターは、GECのジェンダー／GBVスペシャリストの支援のもと、次の事柄に取り組んだ。すなわち、二次データレビュー（SDR）にジェンダーおよびGBV関連の複数の分析レポートを盛り込むこと；量的・質的データ収集ツールにジェンダー／GBVへの堅実な配慮を統合すること；査定チームメンバーやキー・インフォーマントとしての女性の参加を強化すること；フォーカス・グループ・ディスカッション（FGD）への少女の確実な参加を確保すること。加えて、データ収集を担当するパートナーは、現場査定中にGBVの情報開示にどのように対応するか、利用可能なサービスがない場合にサバイバー（当事者）をどのように支援するか、あるいは、GBV照会経路を通じてどのようにサービスを紹介するかを扱う調査員を対象としたトレーニングに、初めて参加した。

共同分析ワークショップでは、ジェンダー不平等、GBV、および青年期女子の教育の中断との間の関連性が明確になり、これについては、JENA報告書（[英語の要約はこちら](#)）で閲覧することができる。

**青年期の女子を含む、少女たちとの協議：**教育クラスターは、ニーズの査定と分析において、少女、少年、青少年の子どもを含む子どもたちの参加を最優先事項とするようになってきている。2023年、GECは、ジェンダー、GBV、および障がいの統合に強く焦点を当てた、[安全で包摂的な子どもの参加のためのチェックリスト](#)を新たに作成した。ニーズの査定・分析段階における女性および少女との協議は、未だ体系的とはいえないものの、これは方法論上の重大な限界として認識されつつあり、教育クラスターによって改善が加えられている。多くの状態で分析の一次データ源として使われているMSNAやJENAは、必ずしも女性や少女をキー・インフォーマントとして意図的に含めているわけではない。

CARとパキスタンの教育クラスター／WGおよびCP AoR／WGが2023年に実施したJENAでは、協議に参加した480人の子どものうち52%が少女であった。

学校調査は多くの場合、校長や教師を対象に行われるが、そのような役職にあるのは圧倒的に男性である。MSNAは世帯主（通常は男性）を対象としている。ほとんどの教育ニーズ査定は、男性だけの知識や意見に基づいているため、女性や少女の具体的な経験についての情報が欠落している。教育パートナーも含め、ほとんどの状況において、教職員は圧倒的に男性であり、また、ほとんどの査定チームにおいて女性スタッフの数は限られている。いくつかの状況においては、女性や少女との効果的な協議のボトルネックとして、社会規範やジェンダー規範が強調されている。アフガニスタンでは、男性の保護者なしで女性や少女との協議を組織することは難しい一方で、ブルキナファソでは、女性や少女は、特に男性の面接官に対して、自由に話すことに必ずしも抵抗を感じない。ニーズ査定において、多くの場合、少女の声が聞かれることはなく、彼女らのニーズは把握されていない。幼い少女や青年期の女子と熱心に協議することは、EiEへの対応が、彼女らのニーズ、脆弱性、嗜好、および能力に合わせて適切に設計されるようにすることにつながる。子ども参加型のアプローチから、子どもは自分たちの生活を良く知っており、障壁やリスクは、性・年齢・障がいや、社会経済的状況、避難、婚姻状況といった特性によって大きく異なる可能性があることが分かっている。

## ヒント

1

**国の教育クラスター**は、困窮状態にある人々（PIN）についての、性・年齢・障がい別データ（SADD）を体系的に収集および分析する。

2

**国の教育クラスター**は、HNO、戦略書、ECW MYRPなどの戦略文書における教育ニーズの分析全体に、ジェンダーおよびGBVのリスク分析を体系的に盛り込み、ジェンダー／GBV関連の利用可能なデータと教育データとを三角測量し、GECや国内のジェンダー／GBV専門家に支援を求める。

3

**国の教育クラスター**は、JENAなどの教育ニーズ査定に関する査定フレームワーク全体にAAAQフレームワークを体系的に組み込む。また、一次データ収集ツールにジェンダーおよびGBVへの配慮を統合し、SDRでジェンダーおよびGBVの情報源を使用する。

4

**国の教育クラスター**は、女性と少女が、データ収集スタッフや参加者／情報提供者（ジェンダー応答的な方法論や、子ども参加型の方法論）といった役割での参加を含め、教育ニーズ査定に積極的かつ十分に関与するようにする。また、WLOが、方法論やツールの設計、データ収集やその後のデータ分析、報告、査定に参加した当事者グループとの振り返りを含め、ニーズ査定プロセスのあらゆる段階に関与することを確実にする。



### 3 戦略設計におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題

戦略設計段階にジェンダーおよびGBVのリスク軽減の介入策を統合することは、ニーズの査定・分析段階で特定された多様なグループの少女と少年が直面する具体的なニーズ、障壁、およびリスクに対応するうえで、また、教育クラスターのすべてのメンバーがEiE対応においてそのような介入を体系的に優先させるうえで極めて重要である。教育クラスターは、ジェンダーおよびGBV RMの基準を設定・推進するという自らの役割を活用することで、担当セクターのEiEへの対応全体の改善を図ることができる。

**クラスターの戦略開発プロセスにおけるGBV AoRとの協議：**いくつかの教育クラスターは今年、戦略開発プロセスの一環としてGBV AoRとの協議をおこなった。教育クラスターにとって、新たな戦略を開発することは、GBVリスクを特定し、それに対応するGBVリスク軽減策を教育クラスター自身の対応に統合するために、GBV AoRのサポートを受ける重要な機会である。GBV AoRコーディネーターを戦略策定・検証ワークショップに招き、戦略草案への意見を求めることは、戦略開発の基本原則のひとつである「すべての関係者との協議」に合致するものである。教育クラスターは、ジェンダーに照準を合わせ、事前に特定され標準化された介入策や、特定の状況および障壁・リスク分析に適応させることができるGBVリスク軽減策の事例を蓄えておくことで、それらの介入策を自らの戦略的対応計画に統合することが容易になったと報告している。

2023年、GECのジェンダー／GBVスペシャリストは、CARの教育クラスターが新たな戦略を策定するのを支援した。その新戦略には、ジェンダーに的を絞ったいくつかの介入策とGBVリスク軽減策が盛り込まれた。2023年6月、同教育クラスターはGBV AoRのコーディネーターを戦略検証ワークショップに招待した。GBV AoRは、学校や学習空間における安全確保および照会メカニズムの強化など、保護の中心性を強化するとともに、同教育クラスターをさらに支援することを約束した。

2023年、チャドでは、教育クラスターのコーディネーターが、GECのジェンダー／GBVスペシャリストの支援を受け、すべてのパートナーとともに新たな戦略の開発プロセスに着手した。パートナーは、教育セクター向けに調整された2日間のジェンダー／GBV研修、ジェンダー／GBV戦略レビュー、およびMYRP学習ワークショップに参加したばかりであった。新戦略の開発にあたり、同クラスターは、ジェンダー／GBV、安全確保、および包摂性の課題をより強力に組み込み、教育からの排除やその他の権利侵害のリスクに最もさらされている多様な少女や少年に明確に照準を合わせるために、技術諮問グループを結成することを決定した。

2023年、北東シリア（NES）の緊急時下の教育に関する作業部会（EiE WG）は、2022年のJENAの結果を踏まえ、新たな戦略を開発するためのワークショップを開催した。そのJENAでは、GBVについて教育を受けていると答えた生徒は29%、教師は37%に過ぎなかった。これを受けて、EiE WGはGBV AoRと協力し、GBV、PSS、PSEA、および包摂性に関する教師へのトレーニングを計画した。同教育クラスターの戦略に記されたその他の協力イニシアチブとしては、学習空間へのアクセス性に関するパートナーの安全監査と家庭評価の共同分析、児童婚が少女とその教育にどのような影響を与えるかに関する共同啓発キャンペーンの開発と実施、学校でのディグニティ・キット（女性や少女の尊厳を守るために最低限必要な生活必需品が入ったキット）の配布などがある。

2023年5月、アフガニスタンの人道カントリー・チーム（HCT）は、GiHA、AAP、ならびに障がい包摂性の各作業部会、およびPSEAネットワークが作成した、アフガニスタンにおける質の高いプログラム構成のための最低基準：AAP、PSEA、ジェンダー、障がい包摂性を承認した。アフガニスタンの教育クラスターは、これらの基準を遵守することを約束し、この基準はすでに2024年のHRP策定の指針となっている。この基準はまた、アフガニスタン人道基金からの配分に反映されることも期待されている。

## 必要不可欠なGBVリスク軽減策の、教育クラスターの戦略文書への盛り込み：

- 1 **すべての教育パートナー、教師、学校職員に対する、子どものセーフガーディングとPSEAポリシー、ならびに行動規範（CoC）に関するトレーニングおよび署名：**子どものセーフガーディング違反には、SEAを含む多くの形態のGBVが含まれる。いくつかのクラスターは、その戦略文書の中で、学校や学習空間でSEAが発生するリスクは、緊急時に悪化するという認識を示している。教育クラスターは、パートナーがCoCを実装できるよう支援する重要な役割を担っている。しかしながら、2023年の時点で、教師がオリエンテーションを受け、性的搾取と虐待からの保護（PSEA）条項を盛り込んだ行動規範（CoC）に署名した学校／学習空間の割合に関する情報を、HNOあるいはHRP内で共有している教育クラスターの数はまだわずかである。2023年のGECのジェンダー／GBVベースライン調査では、クラスターのメンバー全員が行動規範に署名したと報告したクラスターは43%に過ぎなかった。

モザンビークの教育クラスターは、2023年のHRPの中で、全職員が行動規範に署名するようパートナーを指導することにコミットしている。同クラスターは、PSEAネットワークと連携し、PSEAについてメンバー、パートナー、コミュニティ・リーダー、および政府高官をトレーニングするための能力開発および啓発セッションを実施する予定である。同クラスターのメンバーは、プロジェクト活動に関わるすべての人々、特に受益者や子どもたちと定期的に接触する人々が、PSEAの研修を受けることを確実にすることにコミットしている。

南スーダンの教育クラスターは、緊急事態における教師の行動規範（CoC）を策定した。これは、学校や学習空間でのGBVやPSEAを禁じ、リスクの軽減や事例の報告あるいは照会における教師の役割を説明している。CoCに違反した場合の罰則も含まれており、「本CoCに規定された倫理を満たさない教師は、停職または解雇によって懲戒処分を受ける。[...] 法的訴追もあり得る。」と記されている。教師らはこのCoCを遵守することが求められた。

- 2 **すべての教育パートナー、教師、学校職に対する、GBVの情報開示への対応方法とGBVの照会経路に関するトレーニング：**多くの教育クラスターは、ジェンダー／GBVの基本的概念、GBVの照会経路、および[GBVポケットガイド](#)に関する能力開発を、GBVリスク軽減策としてその戦略計画に盛り込んでいる。

しかし現実には、クラスターのメンバー全員が照会経路に関する体系的なトレーニングを受けているわけではなく、そのようなトレーニングが行われる場合でも、通常は国レベルでの実施であり、国より小さな単位や、学校や学習空間に従事し、事件を直接目撃したり、子どもたちから情報開示を受けたりする可能性のある現場の教職員のレベルにまでトレーニングが行き渡っているケースはほとんどない。

ミャンマーの教育クラスターは、2023年のHRPの中で、GBV AoRと協力し、GBVのリスク、GBVの情報開示への対応方法、ならびに適切な支援サービスへの適切な照会経路に対する、子どもたちや教師の意識を高めることを計画に盛り込んでいる。

また、ほとんどの場合、照会経路はサービス・マッピングやパートナーのディレクトリ／さまざまなサービス・ポイントの連絡先リストに限られていることが報告された。安全、秘密保持、尊重、非差別というGBVの指導原則を確実に守るべく、誰がどのように最初に連絡を取るべきかについての実践的な指針は示されていない。さらに、サービス・マッピングや照会経路で共有される情報は、必ずしも定期的に更新されるとは限らないため、プロジェクトが終了したり、その分野で新規プロジェクトが発足したりすると、たちまち無意味なものになってしまう。その結果、教師を含むすべての教育関係者が、とりわけ子どもたちからのGBVの情報開示にどのように対応し、どのように安全に照会すればよいかを実際に知っているわけではない。さらに、教育関係者が実際に経路を利用しているかどうか、またどのように利用しているかを評価する監視システムもない。最後に、GBVサバイバーへの緊急かつ短期的な救命サービスが優先されることが多く、GBVが原因で中途退学した場合の再就学など、子どものサバイバーの長期的なニーズや回復にはあまり焦点が当てられていないため、GBVのサービスプロバイダーから教育関係者への照会は限定されている。



サバイバーへのケアの連続性を完全に実現するためには、子どもたちの長期的な回復をさらに支援し、また、回復力を高めるべく、リスクにさらされ、GBVサービスを利用できる児童や青年期の子どもたちをどのように教育サービスに照会できるかについて検討することが不可欠である。

**3 学校／学習空間の安全監査：**CAR、DRC、ナイジェリア、ソマリア、南スーダンの教育クラスターは、パートナーが学校や学習空間でGBVのリスク分析と安全監査を実施していると報告している。教育セクターの状況に合わせた安全監査の標準ツールはまだほとんどないものの、DRCの教育クラスターの**安全監査ツール**はその一例である。安全監査の例が少ないのは、安全監査が実際に行われていないからではないのかもしれない。教育パートナーは、プロジェクトのモニタリング中に障壁・リスク分析を行う可能性があるものの、それを「安全監査」とは呼ばない可能性がある。あるいは、このような監査は、インタビュー対象となったコーディネーターが在任する前に開発・実施された場合もあることから、教育クラスター内でGBV RMが制度化されていない状況が明らかとなった。

#### 分野別の目標やアウトカムにおける、ジェンダーおよび

**GBV RMの統合：**教育クラスターの戦略文書において、GBV RMを分野別目標として設定することは、教育クラスターがGBV RMの介入に優先順位をつけ、その実施と効果を測定するのに役立つ相応の指標を定義するうえで有用である。GBV RMは、2022年のDRCのHRP、CARの戦略、ナイジェリアとパキスタンのMYRPにおいて、目標またはアウトカムレベルに含まれていた。アフガニスタン、カメルーン、CAR、レバノン、マリ、ソマリア、南スーダンでは、それぞれのMYRP内にアウトプットレベルでGBV RM策を盛り込んでいる。ECWが支援するMYRPはすべて、ジェンダーに対応したアウトカムとアウトプットを設けている。

ECWが支援するパキスタンのMYRP 2022-2024には、次のようにGBV RMのアウトカムが設けられ、青年期の女子を含む少女の就学と就学継続に寄与する4つのアウトプットが特定されている：「青年期の女子を含む少女の教育上のアウトカムは、就学、就学継続、学習に焦点を当てた、的を絞ったプログラム構成を通じて改善される。」

DRCのHRP 2022では、具体的な目標として、「対象の学校に通う6歳から17歳の少女および少年は、学校における子どもの保護とセーフガーディングを目的とした一連の活動により、学校における性的虐待と搾取（SEA）、ならびにジェンダーに基づく暴力（GBV）から保護される」と記されている。DRCの教育クラスター戦略2022-2023には、「SEA／GBV事例の報告を含め、学校における子どもたちの苦情および子どもたちに合わせたフィードバックの仕組みが確立または強化された学校の数」が指標として盛り込まれている。

ECWが支援するレバノンのMYRP 2022-2024は、少女と少年、特に学校に通っていない子どもたちのための、柔軟でジェンダー応答的な正規・非正規教育の機会の重要性を強調しており、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）後のジェンダー行動計画の策定と、女子教育と女子の復学を促進するための全国キャンペーンの展開をアウトプットに盛り込んだ。

#### HRP／対応計画の中のGBVリスク軽減策と、HNO／ニーズ分析で特定されたGBVリスクとの一致：

2023年には、ほとんどの教育HRP（87%）が何らかのGBVリスク軽減策を盛り込んでおり、インタビューしたすべてのクラスターが、少なくとも1つの戦略文書に、ジェンダーをターゲットにした介入あるいはGBVリスク軽減策を1つ以上盛り込んでいた。ブルンジ、モザンビーク、ミャンマー、ソマリア、南スーダン、パレスチナ、スーダンは、計画されたGBVリスク軽減策がどのように機能するかを概説しており、GBVの情報開示に対する安全で倫理的な対応と、照会経路に関する教育関係者へのトレーニングが体系的に盛り込まれていた。クラスターの戦略文書内で最も一般的な介入は、教育クラスターのメンバーや教育関係者へのジェンダーおよびGBVに関する能力開発である。このようなトレーニングセッションは、多くの場合、GBV AoR、GiHA WG、またはPSEAネットワークと共同で、あるいはそれらによって実施され、ジェンダーおよびGBVの基本概念、GBVの専門家以外がGBVの情報開示に対してどのように安全で思いやりのある対応を行うか、GBVの照会経路、PSEAやAAP、その他の子どものセーフガーディング策といったトピックが扱われている。その他の一般的な介入には、ジェンダー別のWASH施設の再建や、学校や学習空間における月経衛生管理（MHM）の促進などがある。

ナイジェリアの教育クラスターは、2023年のHNOの中で、湾岸諸州全域における女子教育について、「ジェンダー別の学校インフラ、トイレ、その他の校内WASH施設の不足が [...] 大きな阻害要因となっている」と分析している。その結果、「性ごとの適切なWASH施設を備え、その機能を果たす、安全かつ保護され設備の整った学習空間の数」に関する具体的な介入と指標が盛り込まれた。

ほとんどのクラスターは、対応計画にGBVリスク軽減策を組み込んでいるものの、提案された対策は、必ずしもニーズ分析で特定されたリスクや障壁に一致していない。GBV RM策はリスクに対応している可能性があるものの、その説明が明確にされていないため、一貫性がなく、対応とニーズが明らかに乖離したものになっている。また、リスクは特定されたものの、対応計画でリスク軽減策が提案されなかった例もある。多くのクラスターは、このギャップの理由として、HNO/HRPでクラスターが遵守しなければならない時間的制限を挙げている。南スーダンとナイジェリアは、HRPとMYRPで提案されたGBV RM策と、HNOで示されたニーズ、障壁、およびリスク分析との直接的な整合性を確保していた。

**教育からの排除および／または安全確保やGBV関連事案のリスクに最もさらされていると認められた、特定の少女または少年のグループへの照準化／最優先化：**

いくつかの教育クラスターは、その戦略文書の中で、ジェンダー、年齢、障がい、避難状況、婚姻状況や、相互に関連し複合的に絡み合う脆弱性の要因を理由として、特定のグループの少女や少年が不就学や中途退学のリスクに一層さらされている可能性があるという認識を明確に示している。その結果、そのようなグループのみに的を絞った、あるいはそのようなグループを最優先にしたテラーメイドの介入が対応計画に盛り込まれた。

CARの教育クラスターの2023～2025年の戦略では、非就学の少女、既婚の少女、妊娠中の少女、若くして母親になった少女、避難民の少女、障がいのある少女など、教育から排除されるリスクが最も高い少女のいる世帯を優先して現金支援を行う予定である。

2023年、ブルンジの教育クラスターは、GBV AoRとの協力のもと、少女、特に若くして母親になった（既婚または独身の）女子の教育システムへのアクセスと就学継続に重点を置くことにした。これは、すでに子どもを持つ少女が、中途退学のリスクに最もさらされていると特定されていたためである。教育パートナーらは、EIE教材、ディグニティ・キット、学校における心理社会的支援（PSS）を優先させることとし、学校で彼女らのための特定枠が確実に割り当てられるよう学校に働きかけ、フォローアップすることにした。

チャドの教育クラスターは、2024年に新たな戦略開発を進行させている。教育パートナーらは、開発プロセスの一環として、分野横断的な分析に基づき特定された3つの優先ターゲット・グループのニーズを満たし、また、障壁やリスクを軽減する、テラーメイドの介入パッケージを設計することに焦点を当てた、いくつかの作業部会を設けることに合意した。このような優先ターゲット・グループとはすなわち、

- 1 非就学および中途退学の青年期の男子および女子
- 2 児童婚の危険にさらされている少女、既婚の少女、妊娠中の少女、授乳中の少女、若くして母親になった少女
- 3 障がいのある少女と少年。これは、最も危険にさらされているにもかかわらず、これらのグループがチャドの教育対応において、無視されているとは言わないまでも、見過ごされがちであるという現実から生まれたものである。

**ジェンダーおよびGBV RM統合に向けた、政府とその他の国・地方のアクターとのネクサス全体での協力：**教育は、人道と開発のネクサス（集団内の個々の結びつき）に沿って活動するのに特に適した分野である。危機というものは、教育関連の政策や教育／学習カリキュラムにジェンダーおよびGBV RMへの配慮を組み込むために、教育クラスターが国や地方の教育当局、地域教育グループ（LEG）などの開発アクター、および政策立案者らとともにアドボカシーや支援活動に取り組む機会となりえる。エチオピア、モザンビーク、ナイジェリア、南スーダン、ウクライナの教育クラスターは、ジェンダーおよびGBV RM統合について教育当局と関わり、これを支援していると報告した。





他の成果としては、そのような関与によって、ジェンダー変革に関連する要素や文言、ならびに、教育に関連したGBVリスク軽減策が国のカリキュラムに盛り込まれるようになった<sup>13</sup>。同様に、学術的・教育的な内容や方法をジェンダー変革的なものにしようとする政府の関心は、教育クラスターが後押しする変革の原動力となりうる。

南スーダンでは、ECW支援によるMYRP 2020-2022が、女子教育戦略2018-2022の評価をサポートした。その結果、[ECW支援によるMYRP 2023-2026](#)において、一般教育指導省（Ministry of General Education and Instruction）の女子教育戦略2023-2026の開発を支援することになっている。この戦略は、セクター全体を通してジェンダー平等と女性・少女のエンパワーメントを推進するという、教育セクタープラン2023-2027の目標の運用に役立つだろう。

ナイジェリアの教育クラスターは、2023年5月に上院がGBV関連の情報を国の学校カリキュラムに盛り込む法案を可決したことは、学校でのGBV RMを可能にする環境を一層整える画期的な政策であると指摘している。また、ECWが資金提供するMYRPとFERの開発プロセスは、ジェンダーおよびGBVに関してクラスターらが教育当局と関与する絶好の機会を提供している。エチオピアでは、ジェンダー省（Ministry of Gender）がMYRP開発委員会のメンバーに入った。また、エチオピアの教育クラスターは、現地化というアジェンダは、同クラスターの数少ないWLOメンバーをさらに支援する機会であると述べている。緊急事態の発生時において、教育クラスターは、危機の影響を受けた少女や少年の喫緊の教育ニーズに対応することを優先する。政策立案や改革、あるいは学術的な教育や学習カリキュラムをよりジェンダー変革的なものにするといった長期的なシステム強化活動は、緊急事態が一段落した後や、長期化した危機下において検討されることが多い。

13 INEEの最低基準、指標3.2（ジェンダー変革的であることを含め、学習教材が最低品質基準を満たした、対象の学習空間の割合）に沿ったもの



## ヒント

1

**国の教育クラスターとGBV AoR**は、教育クラスターの戦略開発プロセスの最初の段階から協力する。これは、社会から疎外されたり、リスクにさらされている／サバイバーの青年期の女子を対象とした共同対応を含め、HPCサイクル全体を通して、将来の協力関係への道を開く機会として利用されるべきである。

2

**国の教育クラスター**は、教育クラスターの戦略、対応計画、実装パートナーが作るプログラム提案に、セクターとして必要不可欠なGBVリスク軽減策を、セクターの基準として体系的に盛り込み、これを推進する。これらのGBVリスク軽減策には、少なくとも以下のものが含まれるべきである：

- 1 学校での行動規範（CoC）の確立の実装および監視
- 2 GBV情報開示への対応、GBV照会経路、およびGBVポケットガイドに関する教師のトレーニング
- 3 安全監査。

教育クラスターは、教育クラスターのメンバーやWLOを含め、GBV AoRと協力したり、その他の国内で利用可能なジェンダー／GBVの専門知識を活用する。

3

**国のGBV AoR**は、利用可能なサービスや照会経路に関する最新情報を教育クラスターに提供する。GBVアクターは、子どもや青年期のサバイバーを教育パートナーに照会したり、あるいは、ケース・マネジメント・プロセスの一環として、彼女／彼らを事例検討会議に招待し、必要に応じて教育システムへの再統合を支援する。

4

**国の教育クラスター**は、戦略的対応計画内の分野別の目標、アウトカム、およびアウトプットにジェンダーおよびGBVへの配慮を統合したり、リスクにさらされたグループ（例えば、既婚の少女、妊娠中の少女、若くして母親になった少女）に特化したアウトカムやアウトプットを設ける。

5

**国の教育クラスター**は、提案されたGBV RM策と指標が、ニーズの査定・分析段階で特定された具体的なニーズ、障壁、およびリスクに常に対応していることを確認する。教育におけるGBV RMのマッチング・マトリックス2021およびGECのAAAQフレームワークと、これに対応する障壁ならびにGBVリスク軽減策2023（作成中）は、具体的な障壁およびリスクに対応した介入および指標の例を示している。

6

**国の教育クラスター**は、ジェンダー変革的な教育政策など、規範の転換ならびに持続可能な変革に向けて、ジェンダーおよびGBV RMの統合の長期的な取り組みについて、教育当局や、LEGなどの開発アクターと協力する。

## 4 アドボカシーと資源動員におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題

教育クラスターは、EiE関連の全体的なアドボカシー活動や資源動員活動の一環として、危機下における少女の教育の支援と、学校での少女の安全確保を直接の目的とした介入への資金増額ならびに資源動員を訴えることが極めて重要である。女子教育とGBV RMに対する専用資金についてのデータは、国の公的支出や国際援助資金の追跡システム内ではまだ確認できていない。しかしながら、教育クラスターは、資金不足が、EiEにおけるジェンダーを対象としたGBV RM介入策の計画、実施、ならびに効果測定モニタリングの実質的な障壁になっているとしばしば報告している。最近の研究によると、ここ数年で資金が増えているにもかかわらず、[人道危機における女性と少女のための世界的な資金は、必要な財源を大幅に下回っており](#)、ジェンダーおよびGBV関連の資金が国際人道援助全体に占める割合は、なお極めて小さい。

**教育クラスターの戦略文書への、ジェンダーおよびGBV RMの介入に特化した予算の盛り込み：**ほとんどのクラスターは、ジェンダー別のWASH施設、ディグニティ・キット、政府との協働による女性教員の採用・確保の促進／奨励など、教育におけるジェンダー主流化や、ジェンダーに照準を合わせた介入に資源を動員している。いくつかのクラスターの対応計画（ナイジェリア、ミャンマー、DRC、アフガニスタンなど）では、GBVのリスク軽減策と指標が明確な予算枠とともに組み込まれており、また、ECWが支援するMYRPのほとんどでは、ジェンダーに的を絞った介入策やGBV RM策が、予算化された詳細な活動と併せて盛り込まれている。ミャンマーとDRCの教育クラスター調整チームは、HRP予算の一定割合を分野横断的な課題や保護の中心性に割り当てるといふ、OCHAを通じた既存のクラスター間のコミットメントを活用し、自らのアドボカシー活動や資金動員活動を強化したと報告した。

DRCは、2021年のHRP以降、HRP予算の1%を分野横断的な課題に割り当ててを約束した。2023年にはすべてのセクターが寄与し、この数字は2,250万となった。教育クラスターが予算配分したGBV RM活動には、学校や学習空間におけるSEAならびにGBVに関する報告・照会メカニズムの確立や、GBVの主要概念、GBVリスク分析、およびGBV照会経路に関するクラスター・メンバーの能力開発などが含まれている。

とはいえ、教育クラスターがGBVリスク軽減のために資源を動員することは、まだ比較的まれである。[教育分野は最も資金が不足しているセクターのひとつ](#)であり、また、EiEの財源の中でジェンダーおよびGBV RMの介入には予算がほとんど割り当てられていないという全体的な資金不足の状態こそが、EiEにおけるジェンダーおよびGBV RMのための資源動員に関してクラスターのコーディネーターが強調した主な課題である。教育クラスターのメンバーは、GBV RMは、命を救い、安全で質の高いEiEの調整および対応に不可欠なものというよりも、その場限りの補足的な要素であると認識しているため、アドボカシー活動や資金調達活動において、GBV RMを優先することはほとんどない。教育クラスターは、GBV RMの資金調達が誰の責任なのかを必ずしも明確にしているわけではなく、GBV AoRの責任だと考えている場合もある。[IASCのGBVガイドライン](#)に次のように概説されているとおり、GBV RMの資源動員は、教育クラスターとパートナーの責任である：「すべての人道アクターはGBVのリスクを認識し、[...] そのようなリスクを可能な限り早急に防止および軽減しなければならない。（クラスター／セクターのコーディネーターは） クラスター／セクターのさまざまな方針および計画において、GBV活動のための継続的な予算確保の戦略が盛り込まれるようにすべきである。」

**国別共同基金（CBPF）やその他の教育プログラムの審査プロセスにおける、ジェンダーおよびGBV RM統合への資金提供の条件制限（IASCのジェンダー・年齢マーカー（GAM）の使用を含む）**：ドナー、資金調達機構、そして、資金配分的意思決定プロセスに関わるその他のステークホルダー（教育クラスターを含む）は、EiEの戦略やそれに対応する成果枠組みに、予算配分されたGBV RM活動や指標が盛り込まれるようにする上で重要な役割を果たす。すべての教育クラスターは、人道的な資金配分という点で、OCHAが開発したプロジェクト・スコアカードを使ってプロジェクトを審査している。

ジェンダー平等の項目は、プロジェクト設計段階でのIASC GAMスコアを通じて、あるいは、ジェンダー分析がプロジェクト全体にどのように統合されているかを測る評価を通じて、すべての国において、プロジェクトの審査スコアカードに盛り込まれている。審査基準としてGBV RM策を含めることはあまり一般的ではなかったものの、[「テンプレート」](#)のCBPFスコアカードに評価基準として含まれている。

アフガニスタン、ミャンマー、ナイジェリアの教育クラスターは、国別共同基金（CBPF）のプロジェクト審査スコアカードに、ジェンダーおよびGBV関連の評価基準を使用している。IASCのGAMスコアが3であることが求められ、提案書において、ジェンダー平等がどのように促進されるのか、GBVの予防策やリスク軽減策がプロジェクトにどのように盛り込まれているか、教育関係者はGBVサバイバーをどのように安全に照会し、サバイバーが専門サービスにアクセスできるようにするかについて概説しなければならない。

ECWが資金提供するMYRPおよびFERの開発プロセスは、教育クラスターがジェンダーおよびGBV RMのための資源動員を促進する機会でもある。

いくつかのクラスターの報告によれば、ECHO、世界銀行、USAIDなどの他のドナーも、ジェンダーおよびGBV RMの統合をプロジェクトの審査基準に含めるようになってきている。2023年には、EU/DG ECHOが資金提供するEiEに関する活動の65%以上が、安全確保の要素を組み込んでいた。しかしながら、教育プログラムへの資金提供の適格性を判断するために用いられる分野横断的な基準やジェンダー／GBVの審査基準は、背景やドナーによって異なるため、パートナーに何を推奨すべきかに関する一定の不確実性が教育クラスター間に生じている。

2021年、ECWはGBViEからの保護に関する行動喚起に呼応して、「[ECWからのすべての投資（FERとMYRP）には、1つ以上のGBVリスク軽減に関する指標と、GBVリスク軽減策の予算枠を含めること](#)」を確実にした。ECWはパートナーに対し、MYRP予算の少なくとも25%をジェンダーおよびGBV RM統合の介入策に、10%をメンタルヘルスと心理社会的支援（MHPSS）の介入策に割り当てよう奨励している。2022年には、活動中のFERの32%がGBV RM策の実施と監視を報告しており、リスクにさらされたグループ、特に青年期の女子と女性教師のアクセスおよび定着の強化について大きな改善が見られた。2021年時点では、この割合はFERのわずか6%であった。レバノンでは、MYRP予算の14%がジェンダー関連の対応策に割り当てられている。パキスタンでは、MYRP予算のほぼ11%が、現金支援も含め、少女の学習、就学、および就学継続の改善に割り当てられている。

#### CPおよびGBV AoRとの共同アドボカシーと資源動員

**教育クラスターは、GBVやCPのAoRと協力して、共同のアドボカシー・ノートを作成したり、ドナー円卓会議などの資金調達イベントを開催したり、統合的で補完的なプログラム構成のための共通の提案書を作成するようパートナーに働きかけることができる。**

**教育クラスターのアドボカシー・プロダクトへの、ジェンダー、GBV、およびEiEに関するキー・メッセージならびに女性・少女の声の盛り込み**：教育クラスターのアドボカシー・プロダクトは、ジェンダー不平等、GBV問題、特に少女に対する教育の欠如や中断との本質的な関連性を強調する絶好の機会である。教育クラスターは、学校が身体的・心理社会的保護を提供すること、青年期の女子の安全確保とGBV問題（早期結婚や強制結婚、妊娠など）ならびに中途退学との関連性についてのキー・メッセージ（最も伝えたい重要なメッセージ）を盛り込むことが多い。

2023年9月、CPとGBVのAoRを含むマリの教育・保護クラスターは、教育を受けるすべての子どもたちの権利を脅かす、教育に対する攻撃と学校の閉鎖に関する[共同アドボカシー・ノート](#)を作成した。同クラスターらは、学校に通わなくなった場合に、保護やGBVの問題に対して特に脆弱になるのは少女であることを指摘した。また、こちら3つのセクターは、2024年に向けて、共同でドナー円卓会議を計画している。



また、教育クラスターは、質的データの収集時（FGDやKIIなど）に得た少女や青年期の女子、あるいはリスクにさらされたその他のグループの生の声を書きとったり、SDR中に他のセクターの報告書にある記述を引用したりすることもできる。児童・生徒、親、教師など、少女や女性の生の声を取り上げて説明することで、アドボカシー・プロダクトをより説得力のあるものにすることが可能である。

エチオピアの教育クラスターは、2022年第4四半期のニュースレターで、村が襲撃され、命からがら逃げ出さなければならなかった際に家族と離れ離れになった、学校に通っていない青年期の女子の声を取り上げて状況を説明した。彼女の体験談は、代替学習プログラムや学習空間でのPSSを含む緊急時下の教育が、危機の影響を受けた少女らにとって希望の光となりうることを、そしてドナーへの訴求に利用できることを、強く思い起こさせるものである。

ハイチの教育クラスターは、2023年のHRPの中で、毎日温かい食事がとれる唯一の場所である学校の重要性についての、少女からの生の声を掲載している。

スーダンの教育クラスターは2023年9月のアドボカシー・ブリーフの中で、学校に通っていない子どもたちは安全確保やGBVの問題にさらされるリスクがより高く、特に少女がGBVの被害を受けやすいと述べている。

シリアの2022年と2023年のGBV AoR査定であるVOICESには、教育がいかに少女らに尊厳と目的意識を与え、暴力を減らし、将来の搾取を防ぐものであったか、また、少女らにとっていかに教育がより良い未来への唯一の希望であったかについて、少女による生の声が多く掲載されていた。

## ヒント

1

**国の教育クラスター**は、パートナーに対し、ジェンダーに照準を合わせたGBV RM介入に特化した予算をプロジェクトに体系的に含めるよう奨励するとともに、GBVリスク軽減策を含め、（例えば、5W（いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ）でのジェンダー／GBVマーカーを通じて）少女の安全な教育へのアクセスを直接支援することを目的とした資金調達を追跡する。

2

**国の教育クラスターとGBV AoR**、および／またはGiHA WGは、OCHA標準のCBPFスコアカードを適用する際、国別共同基金（CBPF）のプロジェクト審査プロセスの評価基準として、ジェンダー平等とGBVリスク軽減の統合の両方を用いる。

3

**国の教育クラスター**は、ジェンダー不平等、GBVのリスクと種類、教育へのアクセスの欠如や中断との関連性に関するキー・メッセージを盛り込み、また、アドボカシーや広報関連のプロダクトにおいて、少女や女性、およびリスクにさらされたその他のグループの声を取り上げて詳細に説明する。

4

**国の教育クラスターとGBV AoR**および／またはGiHA WGは、アドボカシー・プロダクトを共同で作成し、アドボカシー・ノートやドナー円卓会議などのアドボカシー・イベントを開催する。最低限として、ドナーとのアドボカシーでは、安全で質の高いEiE対応のために、ジェンダー統合とGBVリスク軽減のための資金を確保することの重要性についてのメッセージが必ず含まれるようにする。

## 5 レスpons・モニタリングと評価におけるグッド・プラクティス、なお残るギャップと課題

影響をうけた人々、特に女性と少女の教育サービスへのアクセス性を高め、保護・GBV関連のリスク軽減を一層深めるための行動をパートナーが実施しているかどうかについて、教育クラスターが知るためには、ジェンダーに的を絞ったGBV RM策の実施ならびに効果のモニタリングと評価（M&E）が不可欠である。また、こうした活動が、学習空間や教育サービスへのアクセス性を高め、緊急時下で少女、少年、女性、男性が安心して利用できるようにすることに貢献したかどうかを判断することも極めて重要である。

### 教育クラスターの戦略文書内における、対象者およびサービス到達者に関する性・年齢・障がい別データ：

HRPや、ECWが資金提供するMYRPやFERの開発プロセスというのは、教育クラスターとパートナーにとって、多様なジェンダー、年齢、障がい、その他のグループの子どもたちのために野心的な目標を設定するうえで、集団的なブレインストーミングを始める機会となる。

ECWのMYRP資金は、60%の少女に到達することを目指している。

MYRPの報告ツールであるECWの「児童・青少年到達度」マトリクスは、正規または非正規教育を通じて、ECWが資金提供したEiE支援が到達した少女、少年、青年期の子どもの数を教育パートナーが追跡できるよう支援するものである。教育サービスを受けられるようになった人々に関するデータは、ジェンダー、年齢、障がい、ならびに、教育レベル、避難状況別に集計されている。

**教育クラスターの戦略文書における、ジェンダーおよびGBV関連の指標：**2023年、いくつかの教育クラスターは、女性と少女の教育サービスへの安全なアクセスを強化すべく、具体的なジェンダー／GBVリスク軽減策の実施を監視する指標を盛り込んでいた。

2023年、DRCの教育クラスターは、「GBVやSEA事例の特定、報告、ならびに照会のための、機能的で子どもに優しいメカニズムが確立または強化された一時的な学習空間の数」をモニタリングした。

パレスチナの教育クラスターは、2023年のHRPにおいて、安全、保護、サービスへの安全なアクセス、PSSに直接関連する指標を含め、すべての指標目標について、関連する場合に、性および年齢ごとにデータを集計した。すなわち、「安全確保を行うものの存在を含む、さまざまな保護サービスの恩恵を受けた男女の児童・生徒と教師の数」、「安全で利用可能な通学手段の恩恵を受けた、脆弱な地域の少年・少女の数」、「学校を基点とする心理社会的支援サービスの恩恵を受けた男女の児童・生徒、保護者、教職員の数」。また、障がいのある少女と少年の教育へのアクセス強化に特化した指標について、次のように性ごとに集計した：「適応教育サービスや補助器具の恩恵を受けた、障がいのある男女の子どもの数」。

2023年、モザンビークの教育クラスターは、「MHPSS、ジェンダーの社会化、子どもに対する暴力（VAC）、GBVの予防と照会経路を[含め]、緊急時および関連のテーマについてトレーニングを受けた教員と教育関係者の数」をモニタリングした。また、同クラスターは「学校経営管理研修、意識向上活動、[...] 補完的活動（GBV／VACリスク軽減を含む）を通じて、パートナーによって能力強化された教育担当官やコミュニティメンバーの数」もモニタリングしている。

このような指標は、学校におけるジェンダー応答的なWASH施設の新設や改修の件数、配布されたディグニティ・キットおよび／またはMHMキットの数ならびに青年期の女子を対象に開催された学校での説明会の件数、現金支援を受けた少女の数、GBV照会経路が機能している学校の数ならびにGBV関連の課題について研修を受けた教師の数など、さまざまであった。

2023年、いくつかの教育クラスターは、HRPの指標として、少女、特に青年期の女子が生理期間中も学校や学習空間で過ごせるよう支援するMHM支援を受けた人数を追跡することを盛り込んだ。チャドの教育クラスターは、「MHMキットや現金支援を受けた青年期の女子の数」を追跡している。

エチオピアの教育クラスターは、「障がいのある少女を含め、MHMキットの提供とMHMセッションの恩恵を受けた少女の数」を追跡している。ミャンマーの教育クラスターは、「青年期の学齢期の女子が、年齢や状況に応じたMHMの情報提供セッションや、学習空間でのMHM教材の提供を受けた数」を追跡している。

いくつかの教育クラスターの戦略文書では、ジェンダーに的を絞ったGBV RMの介入をナラティブに盛り込む予定であることが大まかに述べられていたが、その実施を監視する具体的な指標は示されていなかった。

ECWの新たな戦略計画2023-2026は、EiEPCセクターで初めて、MYRPでの教育内、およびMYRPでの教育を通じてのジェンダー変革を支援するという目標を設定した。

これには、GBV RM策の体系的な測定や、ジェンダー規範・制度の変化の程度ならびに推進力のモニタリングが含まれる。ECWの戦略計画2023-2026成果枠組みには、次の指標が含まれている：「MYRPを通じて支援するコミュニティの児童・生徒（男女）、教師（男女）、養育者（男女）において、ジェンダー平等に対する社会規範や態度に変化が見られたというエビデンスのある、MYRPの数と割合。」

教育クラスターらは、HRPモニタリング枠組みにおいて具体的なジェンダー／GBV RM指標が教育セクターの中核指標として選択されていないため、そういった指標をHRPに含めることができない場合があると報告した。教育クラスターらの情報マネジメント・オフィサー（IMO）は、クラスターのレスポンス・モニタリングの計画において、具体的なGBV RM指標を開発・選定する作業に必ずしも関与していない。また、いくつかの教育クラスター・チームからも、最低限推奨されるものを含め、教育セクター用に調整されたジェンダー／GBV RM策の実施を監視するための一連の指標があれば役立つという意見が挙がっている。

最後に、EiEPCにおけるジェンダー平等とGBV RM策の有効性ならびにその結果生じる変化をモニタリングするための測定フレームワークがないため、教育パートナーが実施した対策の直接的な結果として、EiEの対応が、どのように安全、かつ、より包摂的で、ジェンダー変革的なものになったかについてのエビデンスを提供することが困難になっている。繰り返しになるが、ジェンダー規範や制度の長期的な変化を測定するための資金提供のメカニズムやドナーの明確なコミットメントは、教育クラスターの取り組みを支援する上で重要である。ECWは、EiEPCセクターにおけるジェンダー変革とGBVリスク軽減の測定に向けたあゆみを加速させる唯一無二の刺激剤である。

教育クラスターの章には出てこないが、すべてのクラスターに適用されるジェンダー／GBV関連の重要な指標は、保護の中心性、ジェンダー、GBV RM、AAP、PSEA、その他の分野横断的な課題に関連する一般的なセクションに含まれていることが多い。[2022年のIASCのPSEAの中核指標に関するガイダンス・ノート](#)は、HCTとパートナーに対し、「SEAを報告するための安全でアクセス可能なチャネルを利用できる子どもや成人の数および割合」と、「被害者／サバイバーを中心にした調査のためのSEAガイドラインおよびプロトコルのトレーニングを受けたスタッフがいるPSEAネットワークのメンバーの数および割合」に関する指標を使用するよう奨励しており、そういったトレーニングはPSEA／GBVの専門家によって実施されるべきであること、そして、SEAサバイバーの照会は国内で確立されたGBVおよびCPの照会経路を通じて行われるべきであることを注意喚起している。



2023年のアフガニスタンのHRPでは、GiHAが「人道活動におけるジェンダーの促進」のセクションにおいて、女性や障がい者との協議による介入の割合（女性CSO、障がい者のCSO、女性シューラー（イスラムの合議制度）、女性ボランティア、高齢女性とのパートナーシップを通じたものを含む）、および人道活動でのジェンダー包摂と女性参加に関する知識を向上させたクラスター・メンバーの数を監視することを計画した。

ソマリアのHRP 2023の保護の中心性のセクションには、次のように、教育クラスターを含むすべてのクラスターが報告しなければならない指標が含まれている：「性・年齢・マイノリティの属性および障がい別のデータを収集しているクラスター・パートナーの割合が80%であること」、および「性・年齢・障がいおよび特定の脆弱性別に集計されたデータの分析に基づいて、目標基準を策定しているクラスター・パートナーの割合が100%であること」。また、GBV RMの代理指標として使用できる安全認識の指標も含まれている：「援助を受けるための移動中、援助を受けている最中、そして援助を受けた場から帰宅する際に、常に安全だと感じている人の割合が70%であること」。

## ヒント

1

**国の教育クラスター**は、モニタリングと報告の枠組みにおいて、各指標の対象者ならびにサービス到達者の性・年齢・障がい別データ (SADD) を体系的に収集および分析する。

2

**国の教育クラスターとGBV AoR**は、クラスターのモニタリングと報告の枠組みに文脈固有的なジェンダー／GBV RM指標を含めるべく、そのような指標の定義において共に協力する。教育クラスターのモニタリングと報告の枠組みには、最低限、次の指標を含めるべきである：

- 1 PSEA条項を設けた行動規範 (CoC) が確立され、学校／学習空間の全スタッフが署名している学校／学習空間の割合
- 2 対象となる学校／学習空間において、GBV情報開示への対応、GBV照会経路、GBVポケットガイドに関するトレーニングを受けた教員の割合。

3

**国の教育クラスター**は、ピアレビュー、評価、および学習プロセスに、ジェンダー／GBV RMを組み込む機会を探る。

このような活動には、CCPMプロセスにおける当該クラスターのジェンダー／GBV活動の振り返り、EiEプログラム (MYRPなど) におけるジェンダー／GBV RMの統合に関する学習ワークショップの促進、苦情およびフィードバックのメカニズム (CFM) といったセクターのAAPメカニズムの安全性、アクセス性、ならびにジェンダー応答性に関する集団的レビューなどが含まれる。